

曾根俊虎「鉄窓漫吟」：資料の解説と紹介

黒木，彬文
九州大学法学部講師

<https://doi.org/10.15017/16346>

出版情報：政治研究. 42, pp.71-84, 1995-03-31. 九州大学法学部政治研究室
バージョン：
権利関係：



資料紹介

曾根俊虎「鉄窓漫吟」

——資料の解説と紹介——

黒木彬文

解説

ここに紹介する曾根俊虎の「鉄窓漫吟」は、かれの興亜論の性格の変化および中国、朝鮮におよぶ交友関係を知るうえで、見逃すことのできない貴重な資料である。

この資料は、もともと、近代日中関係史家佐藤三郎氏が元米沢図書館長でいまは故人の赤井運次郎氏から借覧された「曾根蔵書」のなかにふくまれていたものであり、それを佐藤氏が原稿用紙に筆写した「写し」を底本にしたものである。ここに、筆者に「写し」の借覧を許された佐藤氏に感謝の意を表したい。

紹介するにあたり、底本の上欄には、逸史と蘭溪という二人の人物が付した頭註があるが、これは曾根俊虎本人の著述

ではないのでここでは省略した。また、漢字は新字体になおしたが、一部旧字体をそのままにしたものもある。漢詩に付された数字は、解説の便宜上、新たに付したものであることをおことわりしておきたい。

資料の紹介に移るまえに、曾根俊虎とこの文書が書かれた時代背景について触れておきたい。

曾根俊虎は弘化四（一八四七）年、山形県米沢に生れ、明治維新後上京して明治四年海軍に奉職し、以隆主として中国、朝鮮、越南をはじめとするアジアの軍事情報の収集に従事した海軍軍人である。その傍ら日本のアジア政策について種々の献策を政府、外務大臣になしている。とりわけ日本の琉球併合をめぐり、日清関係が緊張していた明治十二年の献策「緊清論」は、中国への軍事的侵略の具体策をのべたものであり、かれの興亜論の基本的性格、特徴が表明されていた。

明治十三年には、欧米列強に虐げられているアジアの実情を見るにつけ、不平等条約に苦しむ日本とアジアとの連帯をめぐし、日本の安全保障の観点から、外務省大書記官の渡辺洪基らとともに興亜会を組織した。

曾根俊虎は海軍軍人でありながらも、民権激派で大陸雄飛

論者の宮崎八郎や同じく民権論者で日本と朝鮮の対等合邦を説く樽井藤吉などとも交流のある興亜論者でもあった。

ところで、明治政府は条約改正実現のため明治二〇年四月、井上外相のもとで欧米主義の法典編纂、外国人裁判官の任用などを内容とする条約案を決定した。しかし、この案は日本の国権を侵害するとして、内閣顧問ポアソナード、農商務相谷干城、内閣顧問勝海舟などの政府内部からや鳥尾小弥太、三浦梧樓、曾我祐準らの保守中正派の将官、元田永孚らの宮廷派の反対にあい、政府は条約改正会議を中断し、九月、井上外相は辞職した。この時自由民権派は勢力挽回のチャンスとみて政府の対外方針を卑屈軟弱と批判し、国民の国家主義的意識に訴えた。十月、後藤象二郎は民権派に、政治の刷新と国権の確立と伸張をよびかけ、三大事件建白運動（地租軽減、言論集会の自由、外交失策の挽回）を起し、旧自由党と立憲改進黨をふくむ民権派の結集をはかる大同団結運動を展開した。¹⁾

この運動が盛り上がり上がろうとしていた一月二八日、曾根俊虎の友人樽井藤吉が、井上毅とポアソナードの対話筆記、司法条約改正草案議事録およびこれに関するポアソナード意見

書の三種を合輯し批評を加えて秘密出版した疑いで、出版条例違反に問われて、警視庁に逮捕された。

政府は、この建白運動が秘に政府が準備している欽定憲法批判になるのを恐れ、運動の弾圧に乗り出し、一二月二五日保安条例を發布し、民権運動家を中心とする六〇〇人を東京から追放した。樽井藤吉もそのなかに含まれていた。

このような状況のなかで司法省（山田顕義大臣）に属する東京軽罪裁判所は、明治二一年二月四日、樽井事件の捜査の線から、曾根俊虎が樽井藤吉の秘密出版条例違反事件へ関与している疑い（政府批判の評語の追加、秘密出版費の援助、秘密冊子の頒布）をもち、筆跡鑑定のため海軍大臣に、曾根俊虎の自筆書類の提出を求めてきた。海軍大臣（西郷従道）は、曾根俊虎と樽井藤吉の関係を疑い、ただちに同日、曾根俊虎を参謀本部海軍部編纂課長心得から罷免し待命処分とし、ついで二月一五日、出版条例違反および官吏侮辱罪の疑いで、海軍横須賀鎮守府の営倉に収禁した。しかし、横須賀鎮守府軍法会議は審理の結果、かれに嫌疑なしとして五月二一日収禁を解き、同二三日無罪議定した。

ところが司法省は、捜査の手を緩めず、軍法会議と東京軽

罪裁判所の判決一致の必要性を口実として、六月一四日鎮守府軍法会議に、判決案、理由書の送付を依頼し、八月二九日には曾根俊虎の身柄の引き渡しを要求した。海軍省は対応に

苦慮し、伊藤博文総理大臣に意見を仰いだところ、伊藤は身柄の引き渡しを指示した。しかし引き渡しには軍法会議の判士長・海軍大佐大野義方が反対したので、海軍大臣は、東京輕罪裁判所に協議することなく独自の宣告を指示し、一〇月

一〇日横須賀鎮守府軍法会議は、曾根俊虎に無罪を宣告した。

以上の経過からも推測されるように、曾根俊虎逮捕事件は内務省と海軍省の権限争いも伴う多分に政治性を持ったものであった。⁽³⁾ 推測すると、内務省が民権運動弾圧の見地から曾根俊虎の有罪を狙ったのに対し、海軍省はこれまでのかれの情報収集家としての役割を評価し、東京輕罪裁判所(内務省)による曾根有罪判決のもたらす海軍省の権威失墜をおそれて、身柄引渡しを拒否し、無罪判決を下したように思える。

とはいえ、海軍省にとつても、民権論者と親交をもつ曾根俊虎が要注意人物であることには違いなかったであろう。その後曾根俊虎は一二月に休職となり、明治二二年には山形、秋田地方を旅行して過ごし、二四年三月六日には病気を理由

として海軍を退役し、再び海軍に戻ることはなかった。⁽⁴⁾ ときに曾根俊虎四三才であった。

さて、ここに紹介する「鉄窓漫吟」は、曾根俊虎が以上にのべた樽井藤吉の秘密出版条例違反事件に関連して、海軍横須賀鎮守府の営倉に収禁されていた明治二二年二月一五日から五月二一日までのあいだに営倉で詠んだと思われる獄中吟である。

かれは讒言によつて逮捕され営倉に収監されたという(鉄窓漫吟序)。ではだれによつて陥られた、と考えていたのであろうか。このなかではどこにも明らかにされてはいないが、これまで政府(伊藤博文首相など)に嘆願することはあつても、公然となすことのなかつた政府批判を表明しているところをみると(74)76 数字は漢詩に付した番号……以下同)、伊藤をはじめとする長州閥を考えていたものと思われる。かれは、政府が人材登用に失敗し(75)、愛国者を用いず(76)、文官は拝金に走り、武官は怯懦となり(76)、参謀本部は戦争指導に失敗し(75)、富国強兵策は放棄されているとし、ために政治道義は廃れ(76)、悪政により民衆の力は枯渇し、政府を非難する民衆の声は天下に満ち満ちている(76)と政府を

批判する。

そして尊敬する人物として、副島種臣（鉄窓漫吟序、48）、西郷隆盛（9）、岳飛（金軍を破り武功をたてたが、佞臣秦檜に讒せられ獄死した南宋の武将）（96）、ナポレオン（30）をあげている。この組あわせは長州閥批判とは矛盾しないようである。そして、青年時代からの知人であり、興亜会ともに指導してきた渡辺洪基、いまや伊藤博文の側近として東京府知事の顯職におさまる、その渡辺に、曾根俊虎は逮捕されても変らない興亜の情をのべ、讒言による冤罪で獄につながれている身を訴えた（87）。

かくして、曾根俊虎はこの「鉄窓漫吟」を詠んだのちに海軍を辞し恒屋盛服と日本移住組合を設立した。明治二五年アメリカに渡り、帰途ハワイに寄って二七年帰国すると、日清戦争に際会した。かれは遼東半島返還の直後に、著書『東洋之危機―滿清之割裂』をあらわし、そこで清国の弱体を世界に暴露したうえに一旦獲得した遼東半島の返還に応じた伊藤内閣のアジア外交方針の不確立を痛烈に批判した。⁽⁵⁾二九年には台湾にいき台湾総督府撫慰署に勤め、十一月非職となり、明治三十一年免官となった。晩年は病気で帰国するまで中国

の蘇州で暮し、明治四三年六十二歳で東京に没した。

実にこの「鉄窓漫吟」は曾根俊虎が人生の転期において、政府批判を公然と明らかにした歌であり、対外硬派としての立場を明らかにした歌でもあったのである。

なお、漢詩の解説にあたつて、柴田篤氏のご教示を得た、記して感謝の意を表する。

註

- (1) 遠山茂樹『日本近代史』1（岩波書店、一九七五年）二二六―二七頁参照。
- (2) 「大尉曾根俊虎被告事件」『公文備考（明治二十一年之部、卷之6）』（防衛庁防衛研究所）。
- (3) 佐藤茂教『公文備考』に記載せる曾根俊虎被告事件『史学』（三田史学会）46巻3号（一九七五年三月）一一〇頁。
- (4) 「曾根俊虎奉職履歴」（厚生省援護局業務第2課）。佐藤茂教、同右論文参照。
- (5) 「曾根俊虎の伊藤博文宛意見書」黒木彬文、鱗澤彰夫編解説『興亜会報告・亜細亜協会報告（復刻版）』第2巻（不二出版、一九九三年）二九二―三〇二頁。
- (6) 曾根俊虎『東洋之危機―滿清之割裂』、この書冊は松野良寅氏のご好意により借覧した。

欽窓漫吟序

明治二十年冬朝廷患処士之橫議，發保安條例驅逐之於畿外。會余二三知己亦在逐中。余是以蒙猜疑初被囚於警視獄。尋錮於海軍獄舍。幽囚累月。特選判士海軍大佐大野義六察余無他。斷以為無罪。余平生所交皆勤王憂國之士。而有為余受嫌疑文武官罷職者。余雖廣訂交於內外。要之不過報國尽忠而已。余少為海軍士官後宦遊異域。櫛風沐雨。熟視東亞事情。嘆其衰頹。太息不自禁。明治十三年首唱立興亞會。其要在日清韓三國鼎足同盟而防歐米之輕侮矣。抑全亞衰頹切齒扼腕有不忍言者。若土耳其名則雖獨立。其美不異英屬。波斯阿非汗及西亞諸邦。皆不免碧眼種之侵奪。印度緬甸暹羅安南懷港香港及南洋諸島。亦盡為碧眼人所侵掠殆至亡滅。豈不遺憾乎。英法普之三邦。東掠南侵。維日不足。俄國駸々蚕食清境。已略取黑龍江。漸侵韓之北境。噫吁豺狼溪壑之欲吞噬搏擊未知所底止。則本邦何以能禦焉。惟有亞州聯邦同盟耳。若欲為聯邦同盟。則日清韓不得不誠信同盟。而如有外親內忌互相欺罔。東亞全州乾沒於何地未可知也。此余之所以長大息而報國尽忠之微志也。故決然奮袂欲訂交內外慷慨之士。同心戮力以振興全亞免

歐米之輕侮也。而反蒙三字不免亦悲哉。副島翁有詩曰。何世何朝莫姦人。何時何代莫忠臣。清人李氏評之曰十四字中存無限感慨情。今也吟呻數回。信覺有深意。嗚呼余之遇此厄非特姦人構讒之所致。亦余疎暴之所自招耶。欽窓下白日寂寞。感憤不能禁。賦詩百余首。誦者察微意所存。

欽窓漫吟

(1) 發橫濱到橫須賀途上

孤囚身在輪船中。霧雲咫尺天濛濛。橫須賀水深幾尺。泊得欽艦與艦。艦與艦安用矣。如今時平壯囚止。寄語世間干城徒。休說埋骨何處是。功高賞薄是常時。古今英雄皆爾々。花晨月夕無多日且須醉倒長安市。嗚呼橫須賀水深千尋。洗否慷慨男兒冤。

(2) 謾吟

平生豪氣猶未已。兩度誤墮囚獄裡。天日不照午陰陰。雄飛壯囚今已矣。欽窓不開門堅鎖。食者是麥飲者水。其奈獄吏命令嚴。多少囚人顏如死。我有老母尚在家。頭戴霜雪眼生花。思之思之夜不睡。危坐寒風聞曉鴉。

(3) 同

我生元粗暴。不能學魯肩。直言復面折。遂招三字冤。投身欽
窓裡。往年還今年。噫吁鼎鑊不屈男兒志。深霄夢飛千里天。

目吊南洲。

(10) 同
悲憤中宵夢覺時。滿懷遺憾結如絲。壯圖報國平生志。只有皇

劍氣吐虹衝斗牛。豪懷不似楚人囚。欽窓不鎖中宵夢。策馬遙々
向滿州。

天后土知。

(11) 同

其奈胸中萬感堆。欽窓夜雨斷腸哉。徹旦不眠叉手坐。一陣腥

壯圖元欲救斯民。甘受艱難亦夙因。独笑豪遊前夜客。今朝枉
作獄中人。

風撲面來。

(12) 同

街析声沈燈影没。单衾如水寒入骨。弓臥通宵屈不伸。誰知窓

風穿窓隙冷於霜。白晝暝々無日光。少睡多愁抱膝坐。独誅蟻
蝨整垢床。

外風吹雪。

(13) 同

俠氣遂招三字冤。滿懷悲憤不堪言。乾坤只有老親在。夜々夜

半夜夢回空斷腸。上天何事忌忠良。滿腔悲憤向誰訴。慘雨悽
風秋一床。

深勞夢魂。

(14) 友人本間秀見法律一部賦謝

(8) 同
東奔西走一狂生。三十余年志未成。橫槩賦詩果何日。夢魂夜々
到長城。

飲無薄酒食無魚。跼踏容身九尺居。賴有故人猶憫我。送來法

律宵賦詩。

(15) 同

囹圄垂頭亦一時。排雲覩日豈無期。獄中却是有忙事。畫說法

丹心一片是千秋。独力回天志未酬。自古英雄多失意。獄中嘆

(16) 同

一函法律是吾師。粗暴可治狂可医。自是瀾翻三寸舌。風雲叱

咤万軍馳。

(17) 同

恁々梯袍感友情。兄能知我我知兄。宝書說了沈吟久。一語難

償十五域。

(18) 同

此日囚人最斷腸。淒風慘雨大津鄉。只緣獄裡苦無事。春夜長

於秋夜長。

(19) 雜吟

踈狂那傲乞人憐。重墮狴犴豈偶然。知音只待千秋後。一片丹

心不耻天。

(20) 同

辛苦嘗來意氣雄。平生自許孝兼忠。囚人心事誰相似。白日橫

天万丈虹。

(21) 同

春雨纔晴午尚陰。欽窓兀坐独呻吟。蹉跎未報平生志。万感深

於海水深。

(22) 同

人定欽窓殘漏聲。青燈一点滅還明。向誰訴尽滿腔恨。不覺呻

吟到五更。

(23) 寄閔津風九首

曾上龍爭虎鬪場。彈丸記得貫征裝。如今北狄頻蚕食。慷慨呵

刀氣激昂。

(24) 同

愁雲深鎖帝王洲。胡騎來窺西北陬。世運凌遲知日甚。誰揮長

策護金甌。

(25) 同

英仏南侵俄北侵。三夷蚕食日駸々。鎮南閔外紅河水。化作愁

雲鎖万岑。

(26) 同

北夷虎視逞耽々。仁義元來不可談。牖戶綢繆須先雨。嘉峪閔

外暗含雲。

(27) 同

兵貴強精城守嚴。不容寸地付胡髯。荷戈夢興強鄰戰。封豕長

蛇頃刻殲。

(28) 同

有為之士固非凡。一片雄心可碎嚴。砲火煙中叢戟裏。敢辭鮮

血染征衫。

(29) 同

何時復逐中原鹿。壯士自嗟生脾肉。十載磨來三尺刀。應知空

室青龍哭。

(30) 同

志士固窮何說窮。衝天豪氣吐長虹。史中人物誰吾友。奇握温

兼那保翁。

(31) 同

斯身雖瘦心卓犖。志氣浩然凌五岳。一夜囚窓殘月明。海頭聽

徹戍樓角。

(32) 寄唐相義

五首

宿昔青雲志未非。悲歌何用淚沾衣。半酣時結囚牀夢。猶逐楊

州新月飛。

(33) 同

嘗盡人間辛與酸。滿胸悲憤髮衝冠。雄圖已決連邦策。男子有

為寧避難。

(34) 同

欲磨長劍斬京敵。銳進那辭侵箭鏑。一夜痛嘆愁夢中。憤然寸

裂和戎檄。

(35) 同

悽風慘雨年々急。神鬼号咷天地泣。南是越藩北滿州。恬然束

手任來襲。

(36) 同

鞅鞞山東慘雨闔。大砂漠北淒風颯。毒龍時捲海南濤。又起鼓

聲聲鈴鈴。

(37) 寄劉孔仁

落泊悲歌士。於邑歎沈淪。歲月駛如射。悲秋又傷春。宇宙却

狹小。弱水亦不深。九万博鵬翼。何由渡滄津。

(38) 寄張之退

俯仰古今真怪哉。一感纔平一感來。君不見韓信殊勲空誅殺。

岳飛精忠亦伏鑽。嗚呼功名富貴處何難。呻吟空對囚窓月。

(39) 謾吟

伯樂今何在。荒涼冀北野。一顧難空群。誰辯千金馬。

(40) 同

蛟龍失雨雲。亦是同蚯蚓。吾豈意無憂。囚懷言不尽。

(41) 同

身在鉄窓中。心馳天地外。曾讀韜略篇。功名尚有待。

(42) 同

富貴吾何求。王侯自有種。囚客意自清。冷笑金吾寵。

(43) 同

日月飛雙輪。人生真一夢。休歌易水吟。欲問桃源洞。

(44) 同

人間知己少。伯業真難遇。問處身底終。敢願人傾慕。

(45) 同

雲起則龍吟。風生乃虎嘯。吾今亦何為。徒向青天笑。

(46) 同

志比泰山高。氣吞東海大。壯圖今日休。曲肱囚窓臥。

(47) 同

夕吟長恨歌。朝誦過秦論。盡日欽窓中。繙書聊遣悶。

(48) 奉呈老師副島顧問官

自接英姿二十年。異邦邂逅亦奇緣。輕車夕冒萊州雨。孤棹朝

穿渤海煙。今日霸圖渾已矣。往時雄略已茫然。江湖笑我一枝

筆。掌握嘲風弄月權。

(49) 謾吟

泣月悲花繹綫人。欽窓默坐送三春。知誰忍耻能嘗胆。笑我傷

神未負薪。廿二史中多逆賊。一千年代少忠臣。幾思掃去不掃

得。杜宇声々喚夢頻。

(50) 同

克復中原志未酬。南冠今日奈孤囚。半生不學免三窟。百歲都

掃貉一邱。國破終余婺婦淚。時危更抱杞人憂。壯圖豪氣俱何

在。夢魂空迷巫細洲。

(51) 同

青史曾期赫々勲。男兒元欲挞妖氛。是非到底誰能弁。曲直從

來豈易分。昔日同盟多白骨。今時新進半青雲。悲歌天息眠難

就。喔々鷄声半夜開。

(52) 同

苦雨淒風泣鬼神。皇天亦弔獄中人。一朝寂寞濟民志。寸載飄

零許國身。忼慨捨生無義士。險兇欺世有姦臣。乾坤長剩千年

恨。欲說中情淚滿巾。

(53) 同

少年憶昨氣恢恢。失意一朝陽九回。肥馬再遊南國去。輕舟三

航北溟來。閩城朝伏千將劍。燕市夕呼鸚鵡杯。自笑欽窓深夜

夢。豪然猶上望天台。

(54) 同

男兒鼎鑊本尋常。青史只期千載芳。被鉢衣堅寒似石。照窓月

白冷於霜。劍書空剩雪鴻跡。忠義深銘金欽陽。明滅燈光青一

穗。夢魂遠到大西洋。

(55) 同

韜略胸中万甲兵。壯凶落々压長城。時非未就英雄業。才薄難期竹帛名。一片孤臣憂國志。百年孝子憶親情。自知疎略招奇禍。不對皇天訴不平。

(56) 同

疎豪落々氣吞牛。不落人間第二流。昨日長安豪俠客。今朝北海鉄窓囚。危言遂取千秋恨。齒思難消万斛憂。好待清風撥雲霧。月明重醉庾公樓。

(57) 同

口語招災定底緣。半生心事兩茫然。虛窓說易飢忘食。默坐參禪夜不眠。身在三間鉄窓裡。心駛万里塞城邊。浮雲鎖月須臾事。当有明暉滿九天。

(58) 同

粗暴本天賦。未奏涓埃功。數招小人怒。再陷囹圄中。何世無蜚語。冤罪今古同。斯身借可碎。不変平生忠。衣衾冷如水。白晝天濛々。一夜獄窓夢。西湖吊岳公。

(59) 同

落々壯凶猶未已。奇冤再墮鉄窓裡。征韓誰抱百年論。興亜我

存千古志。注眼孫吳韜略書。訂交燕趙悲歌士。向誰抗慨訴胸中。泉下英雄呼不起。

(60) 同

壯士心腸鉄石堅。蹈水幾度又臨淵。収来西土五州美。欲警東洋千古眼。報國名唯期竹帛。憶家念遂付雲煙。縱然奪劍剝官了。豈奪人間天賦權。

(61) 同

凄風慘雨落花晨。感慨孤寒獄裡人。百尺毒蛇橫大路。万群蜚語集一身。賈生上策動天地。武穆幽冤泣鬼神。鉄窓日青春闌寂。今愁比昨更添新。

(62) 同

囚中咫尺即千里。那識百花開落矣。難掃滿胸万斛愁。未償報國十年志。矢心白水有如斯。埋骨青山何処是。桃李滿城天地春。英雄閑臥鉄窓裏。

(63) 同

辛苦好是練心肝。獄裏還知志益堅。韜略曾期聃內外。虛名何要動山川。流芳只合伝千古。遺臭何須留万年。今日借為囚窓客。一身無疚那慙天。

(64) 同

腥風腸斷海東浜。自覺胸愁猶添新。怪雨嫉花々濺淚。妖雲鎖
月々傷神。豪遊昨日天涯客。遺憾今時獄裡人。不識紛々塵世
事。學禪默坐養其真。

(65) 同

枉在獄中非我尤。丹心那復向人羞。猶存救弱抑強志。更有強
兵富國情。月影荒涼漫牽感。風聲蕭颯更增愁。光陰忽々豈無
憾。九十春光与水流。

(66) 同

大理獄中再寄生。滿胸空又築愁城。年來未報慨慷志。世上徒
伝迂濶名。何管山村花散落。誰言海島浪清平。鉄窓々外是千
里。不使囚人知世情。

(67) 同

閑臥三春繚紲中。区々不用說窮通。砭肌偏覺風霜逼。搔痒何
堪幾蟲攻。半世苦辛仁與義。百年心事孝兼忠。這間自笑平生
氣。猶比橫天万丈虹。

(68) 同

已將獄裏擬仙寰。不問人間行路難。飢食飽眠聊復尔。功名富
貴亦何求。雄心曾到乾坤外。清夢今飛山海關。日々學禪鉄窓
裡。悽然不作楚囚顏。

(69) 同

不怪枉冤身作囚。人間元是有浮沈。昌黎遺憾潮州雨。和靖幽
棲湖水秋。休說慨時憂世事。須為吟月醉花遊。鉄窓借使寄斯
体。夜々魂飛六大洲。

(70) 同

壯士元來分鼎烹。雄心卓犖自縱橫。誠忠節義太山重。富貴雲
烟一羽輕。未俗交情如薄紙。滿胸正氣築堅城。如今繚紲非吾
罪。閑臥鉄窓聞雨聲。

(71) 同

人間艱苦豈難支。為隸為囚亦一時。寸匕菘湯聊止渴。三杯麥
飯且充饑。空嘆鵬鳥賈生賦。細說仙才李白詩。一夜鉄窓殘月
白。夢飛万里鑑湖涯。

(72) 同

曾期一劔拂妖塵。不做愛錢愛死臣。跋水涉山察形勢。梳風沐
雨養精神。正逢北海奔鯨日。誰是中原墜逐鹿人。橫槩賦詩今
已矣。楚囚兀坐淚沾巾。

(73) 寄趙良金

雄圖若就連邦忘。粉骨碎身非所避。城下旧盟人已志。藩疆新
撤吾能記。桃燈談古齊東祠。撫劔論今燕北地。万里訪朋事猶

新。囚夢尚見江山翠。

(74) 同

興亞誰能全協議。挽回衰運謀平治。廟堂全擲救民心。志士空揮憂國淚。淒風鬼哭越南天。慘雨人悲閔北地。長城万里今已非。狼虎橫行版圖裏。

(75) 同

世道凌夷已至此。征伐年々屬徒爾。廟堂取士法全非。帷幄談兵謀不是。北狄無厭狼噬吞。西戎難測虎耽視。壯圖誰策合縱謀。欲挽倒流千丈水。

(76) 同

廟堂不用悲歌士。富國強兵長已矣。道廢文官皆愛錢。世衰武將全畏死。朝修燕北護吾域。夕築越南防敵壘。苛斂年々民力枯。愁嘆聲滿九州裏。

(77) 同

滿懷壯志何時遂。春夜雨和憂國淚。誰獻三軍攻守謀。空論中外興亡事。万邦法廢更輕仁。聖教道微人重利。三顧未曾起臥龍。天雲影冷閔中地。

(78) 寄友人某氏

憶君情緒亂如麻。默坐神馳天一涯。春夜兩行囚裏淚。和將細

雨濺梅花。

(79) 赴軍法會議途上

檻車輾破馬頭煙。路自海浜明処伝。一望無窮猴島外。天風鼓浪浪吞天。

(80) 贈田望南詞兄

縲繼幽愁人那知。負春不語恨如絲。停車龍寺花明処。聽笛浦村抑暗時。痛飲江樓紹興酒。朗吟山閣排悶詩。如今不似同遊日。夜々淒風吹獄帷。

(81) 和某氏韻二首

欽窓何知春艸香。沈默不語春書長。囚人遣恨深於海。風聲雲影都斷腸。遠寺幽鐘天已暮。微雨濺窓夜荒涼。

(82) 同

無用胸中百万兵。一棟鉄獄是長城。讀書覓句足消日。懷古撫今聊慰情。元因安命心殊靜。不肯謀身夢自清。深霄臥聽風濤激。恰似寥寥擊鼓聲。

(83) 贈 hands 某氏

妙機夙曉死兼生。不背東方国手名。感謝一抔神秘藥。直除二豎破愁城。

(84) 和螻堂韻再寄望南詞兄 結末用螻堂句

獄裏空嘆雙髀肥。又嗟金烏棄我飛。鉄窓沈默鍛心肝。不問天道是邪非。回顧前年遊清日。長鉄短衣三万里。画舫棹月珠江流。痛飲訂交燕趙士。今日不似昨日遊。滿腔感情無限愁。安得鉄椎重万斤。為我打破鉄獄囚。

(85) 寄楚正浩 氏曾与余徑歷山東直隸各地

鉄窓無用說杞憂。抱膝悠然憶昔遊。杖劍晚鐘辞渤海。鮮鞍落日泊萊州。霜華滿地泰山下。涛勢蹴天黃水頭。昨日伴君千里路。如今獄裏奈孤囚。

(86) 再赴軍法會議途上

風景無情却有情。檻車到处感縱橫。花明柳暗途三里。処々黃鶯自在鳴。

(87) 贈洪基渡辺兄

世已有興廢。人豈無沈浮。回顧少年日。与君同杞憂。歲月疾如流。乍過幾春秋。一在青雲上。一為獄裏囚。我性重然諾。義慨竟不休。曾醉燕都市。又結悲歌儔。磊々落落志。只期國恩酬。噫呼如今我囚君底知。似否岳公三字冤。

(88) 贈太田某

宿志蹉跎何日酬。回頭往事猶添愁。輪船蹴浪奔橫港。鞍馬穿雲滯勢州。看舞山田神殿里。呼杯海傍会仙樓。人間恰是一場

夢。昨日豪遊今日囚。

(89) 寄陳景明

惆悵生平志未酬。前程無限思悠悠。填胸豪氣凌千古。滿眼妖氛徧九州。暗雲潜龍躍洌日。風腥毒蟒震林秋。囚窓一夜孤燈下。夢裏逢君說杞憂。

(90) 贈金嘉鎮

不為非常事。何有非常功。此言誰能蹈。蹈者真英雄。吾亦一男子。慨時不顧躬。走燕復奔趙。沐雨兼櫛風。落柘十余載。結客抒心胸。方謀與亞策。擴秦決合縱。何凶西氣惡。兵戈南北叢。身雖在獄裡。不忘当變凶。吁時無豪傑。誰掃妖雲濛。

(91) 寄與亞同志王紫詮盟兄。

挽回頽日在吾儔。百二山河去豪遊。滬上尋明三送歲。遼東相地再經秋。壯心已賦長城月。偉蹟猶追赤壁舟。昨日雄囚今已矣。獄窓夢落越南州。

(92) 寄與亞同志社友

欲回衰運救亞州。落魄異邦幾春秋。匹馬伴月長城曉。一鞭橫斷長江流。散財訂交燕趙士。痛飲共論興亞事。兄弟閭櫓非智謀。努力只須一其志。君不知魯國暗算氣如虹。年々蚕食滿州東。又不見英法巧言略南國。余鋒意及越南州。

(93) 寄友人某氏

故人寄我一片紙。開緘堪悲又堪喜。初聞慈母報平安。遂及嘯雲起臥事。數行鴻書情無量。開我愁眉欽窓裡。謝君最重友于情。只吾懸念老母已。嗟吾不免不孝罪。慙淚泫背寒似水。

(94) 呈某大人

墨水何時伴白鷗。滿懷悲憤奈幽囚。遠鐘寒雨蒼苾暮。胡角曉霜哭肅秋。腰下斬綫猶有劍。胸中經國豈無謀。欽窓一夜孤床夢。携手同登百尺樓。

(95) 寄閔津風

雄才國家之干城。氣衝斗牛論縱橫。与君海上曾相見。同心締得芝蘭盟。巫洲衰極當復振。調羹妙手誰善烹。嗟天未使英雄起。蓋世功名何日成。回首字內紛愁緒。客窓夜々夢頻驚。妖氛雲暗西南海。狂瀾百丈吼蛟鯨。上書漫擬胡封事。隣交伏羲画奇麻。嘆彼当道徒姑息。激成慷慨不平鳴。九州詎少奇男子。懷才空事。抱丹誠。我遊燕趙歷艱苦。何時籍手救斯氓。金龜換酒解愁鬱。宝刀脫贈見交情。千載事業一片志。与君扶持大廈傾。

(96) 夢中吊岳公

豪遊再到杭州城。城外湖水依旧清。數里抑提湖畔路。春風輕

送啼鶯聲。岳王墳墓何処是。黃瓦高聳松柏裏。下馬燒香拜墓前。沈默懷古感不已。噫吁何代無忠臣。噫吁何世無姦人。檜之罪惡溢天地。公之精忠日月新。余是万里東洋客。欽公來吊公靈魄。欲訴平生忠憤時。殘夢驚回欽窓白。

(97) 龍馬詞

駿馬來兮自西方。厥價万金傾我囊。鞭絲可追千里電。芻料日費十家糧。四蹄有声蹈珠玉。滿身巧飾七宝裝。醒皇納之損聖德。漢文卻之頌聲長。何來伯樂相此馬。未見吉兆却為殃。嗚呼以十家之產賜戰士士益強。噫吁以七宝之飾救窮民民心康。馬腹肥兮戰士瘦。馬裝鮮兮人色蒼。諫鼓聲絕水投石慷慨之士空斷腸。